

平成31年4月6日(土)

老球の細道473号

日本バスケットボール東京五輪出場決定！

会津バスケットボール協会 室井 富仁

日本のバスケットボール5人制男女、新種目の3人制男女が開催国枠での出場が3月31日の未明に決定した。特に出場が危ぶまれていた5人制の男子は1976年モントリオール大会以来44年ぶりの出場となるようだ。

東京で開催するのだから、私は日本チームは無条件で出場できると思っていたが、FIBA(国際バスケットボール連盟)は五輪の開催国枠の有無は今まで議論の上で決定していたようだ。日本バスケットボール協会は2014年に協会のガバナンス能力の欠如、男子トップリーグの分裂などを理由にFIBAから無期限の資格停止処分を受け、国際試合から締め出しを受けていたが、2015年に関係者の努力によって処分は解除された。

東京五輪を控え、当時の日本協会の役員ではどうにも解決することができなかつたので、外部の力を借りて立て直しを図ることにした。その時に尽力したのがサッカーでJリーグを組織した川淵三郎氏だった。よそ者が来てバスケットボール界が果たしてまとまるのだろうか心配されたが、氏は見事に改革を成し遂げてくれた。彼は協会OBからの反発に対して「バスケットボール経験者でなく、経営者が必要なんだ」という名セリフを吐いて反発を黙らしたという。何事も改革、革命を成し遂げるには「三者」の人材が必要だと言われる。①馬鹿者(常識、前例にとらわれず批判を気にしない)②若者(夢を持ちやる気十分)③よそ者(集団のしがらみに縛られない自由)。

ところで、女子5人制は、モントリオール五輪で正式種目になってからは、五輪にはだいたい出場しているが、男子5人制はモントリオール以来の出場となる。ほぼ半世紀以来である。当時私は大学を卒業した年で、この五輪は色々な意味で記憶に残っている。

1976年第21回モントリオール大会は、女子バスケットボールは初めて五輪種目に採用された大会であった。前年のコロンビアのカリで行われた世界選手権で日本は第2位になり、五輪では金メダルが有力視されたが、ヨーロッパの高さに負けて6チーム中5位と不本意な成績で終わった。しかし、日本チームが使った「忍者ディフェンス」「マッハオフense」などの戦術は大いに注目を浴びた。福島県協会でもその時のコーチ石川武氏(後の日本協会会長)を講師に呼んで指導者講習会を開催し、日本の戦術を学んだ。当時講習会に参加していた私は、バスケットボールの戦術の奥深さに感動した。

男子は会津坂下町出身の江川嘉孝氏(会津高一中大杉並高一明治大学一新日鉄)がコーチとして参加して、五輪は1964年の東京五輪で選手としても参加しており、選手、コーチ両方で五輪出場の偉業を成し遂げている。会津からもこのようなレジェンドが輩出していることを何人の人が知っていることだろう。また、他に選手としてTVのバスケットボール解説者北原憲彦氏や先にお亡くなりになった元中央大学コーチの斎藤文夫氏(現福島西監督渡邊拓也先生の大学時代の恩師)などが大学生で参加している。男子も欧米の高さの壁に阻まれ11位に終わってしまった。

2020年東京大会は新たに「3×3」の新種目が加わり、日本代表のHCは我らがトステイン・ロイブル。彼が日本のバスケットを変えた。できれば彼に5人制のHCをやってほしかった。今後願わくば会津地区から五輪選手が・・・私が棺桶に片足入るまでに。